

日本歯科医学会連合
歯科オンライン診療の初診に関する提言

令和7年5月



日本歯科医学会連合
Japanese Dental Science Federation

はじめに

日本歯科医学会連合では、昨今の医療を取り巻く社会環境の変化、多発する自然災害やこれまで経験したことのないパンデミックなど世の中の大きな動きに対応すべく、「歯科オンライン診療」について、基本的な考え方、特に初診に関する考え方をここに纏めました。

歯科オンライン診療では、遠隔診療の必要性や重要性、利便性について社会状況と歯科医療環境を考慮しつつ、歯科医療を提供する必要があります。今回、本提言では現時点で考えられる「歯科オンライン診療の初診に適さない症状」を抽出し、歯科医師用と患者さんおよび予約受付対応用の2つにわけて精細しました。

実際の臨床においては、対象となる患者さんの症状の訴えは、同じ表現であっても患者さん毎にその幅や深さは異なり、歯科医師が完全に捉えることの困難さに遭遇することもあります。患者さんの状態や症状等を捉えて診断を行い、治療を行うことは歯科診療を行う上で大切な要点となり、すべてを網羅することは困難であるため、ここでは原則的な基本事項を挙げることにしました。

歯科診療においては、まだ馴染みのないオンライン診療であることから、本提言を示すことにより、今後より一層検討が進み、国民の健康に資する歯科診療の一部として、より適切な歯科オンライン診療の具現化、そして社会実装に繋がれば幸いです。

一般社団法人 日本歯科医学会連合

歯科オンライン診療に関するワーキンググループ一同

構成

- 歯科オンライン診療の初診に適さない症状：歯科医師用：p. 3
- 歯科オンライン診療の初診に適さない症状：患者および予約受付対応用： p. 6
- 歯科オンライン診療の初診での投与について十分な検討が必要な薬剤： p. 9
- （参考）歯科オンライン診療に適さないと考えられる症状：p. 10

歯科オンライン診療の初診に適さない症状

歯科医師用

原則：

- 初診時の歯科オンライン診療では、全例において最初に症状の評価を行い、必要に応じては迅速に対面診療へ移行することが求められる。特に、緊急性が高い症状については、速やかに対面受診を促すことが重要である。
- 歯科領域において、問診と画面越しの動画のみで正確な診断を確定することが困難な疾患が多く、初診・再診にかかわらず、歯科オンライン診療の適用可否の判断には、安全に診療を行えるかに関する慎重な検討が必要である。
- 歯科オンライン診療に習熟した歯科医師が、対面診療への移行が可能な地理的・時間的環境・体制において初診を行う場合に、現在の歯科オンライン診療の限界を患者に十分理解させた上で、その利便性を適切に活用することが望ましい。
- 現在、オンライン診療は医科領域で主に行われているが、今後、歯科領域においてもオンライン診療を行う歯科医師が増加することも想定される。歯科オンライン診療において、初診でどこまで行うことが可能かの判断は、「緊急性」および「診断のために医療機関における検査の必要性」、「投薬以外の治療開始の必要性」等の観点から総合的に行うべきである。また、初診に限らず「歯科オンライン診療に適さないと考えられる症状」も念頭におきつつ、判断すべきである。
- また、精神状態が不安定な場合や意思疎通が困難な場合は、歯科オンライン診療の対応が難しくなるため、特に慎重な判断が求められる。
- なお、歯科オンライン受診勧奨・診療前相談は、歯科オンライン診療と区別されることに留意が必要である。

I. 全身症状等

歯、歯周組織、口腔粘膜、顎顔面領域の症状・病変とともに、次の症状・状態がある場合

- (1) 発熱や倦怠感がある場合
- (2) 身体症状（皮膚病変、眼病変、その他の肢体の病変等）がある場合
- (3) 意思疎通が困難な場合（介助者等がいる場合はその限りではない。）
- (4) 精神状態が不安定な場合

II. 保存修復・歯内療法系の症状

- (1) 激しい自発痛
- (2) 明らかな歯の動揺

III. 歯周病系に関する症状

- (1) 激しい痛みを伴う歯肉（歯周組織）の病変
- (2) 著しい腫れ・膿を伴う歯肉（歯周組織）の病変

IV. 口腔外科系に関する症状

- (1) 激しい顎顔面痛
- (2) 顎顔面領域の外傷・出血
- (3) 顎顔面の著明な腫脹・発赤
- (4) 神経麻痺

V. 口腔内科系に関する症状

- (1) 多部位（頬粘膜、舌、口蓋、歯肉など）に認める口腔粘膜病変
- (2) 出血を伴う口腔粘膜病変
- (3) 腫瘤を呈する口腔粘膜病変

VI. 重度の摂食嚥下障害が疑われる症状

- (1) 飲食に伴う嘔吐・呼吸困難・窒息
- (2) 強い咽頭痛や嚥下困難

VII. 補綴系の症状

- (1) 明らかな補綴物の脱離、破損、動揺
- (2) 補綴物の不適合や破損等が原因であることが明らかな口腔粘膜の疼痛、異常

VIII. 小児歯科系に関連する状態（保護者の状態等を含め、オンライン診療が適さない状態）

- (1) 緊急性を要する症状（高い発熱、強い倦怠感、疲労感など）が患者本人、同席の保護者のどちらかまたは双方にある
- (2) 小児患者に自傷・他傷行為を行う既往があり、そのコントロールがされていない場

- (3) 保護者が同席できない場合
- (4) 保護者、小児患者との会話・意思疎通が困難（患者の機嫌が悪い、眠い、小児患者が叱られた直後、保護者が対象の小児患者だけでなく他の兄弟などを叱った直後、強い疲労があるなど）
- (5) 対象となる小児患者と保護者の他に、診療の妨げになる家族やペットがそばにいる場合や、騒音等により診療に集中できない場合
- (6) 虐待が疑われる場合

【小児患者に対する留意事項】

- 歯科オンライン診療を行う歯科医師と小児患者・保護者ともに患者－医療従事者間の信頼関係が成立している状態で行われることが原則であり、初診の場合も歯科オンライン診療を行う医療機関に通院歴がある患者に対して行うことが望ましい。
- 小児は成長・発育による変化が大きいので、最終来院日から6か月～12か月以内の患者に対して行うことが望ましく、以下の状況では歯科オンライン診療に適さない。
 - ・ 予約制で対応できない場合
 - ・ 次の対面での診療予約が確定できない場合
 - ・ 最終来院から12か月以上経過している場合（小児は成長・発育による変化がある）

【小児患者の年齢について】

- オンライン画面での小児患者との会話では、以下のように年齢により理解度に差があることに留意が必要である（その境界には幅があることに留意が必要。）。
 - ・ 3歳未満児～：保護者との対話が主。
言葉による会話のみでは、理解してもらえないことが多い。
 - ・ 6歳未満～：保護者を交えて理解できているか確認しながら対話する。
小児患者の理解度に合わせて、使用する言葉を簡単な言葉に置き換えて会話する必要がある。
 - ・ 12歳以上：ほぼ成人と同じ対応で良い。保護者は見守りが主。
本人との会話、アドバイスに対する確認のためにそばにいてもらう。
- また、成長・発育の段階によって個人差があり、かつ不快症状を有している場合は、安定した心理状態といえないので注意が必要である。

IX. 矯正歯科系の症状

- (1) 矯正治療の必要性に関する診断・検査（診断を含む初診相談）
- (2) 他院で矯正治療中の患者のワイヤーを含む矯正装置の破損等による口腔粘膜病変・疼痛

歯科オンライン診療の初診に適さない症状

患者および予約受付対応用

原則：

- オンライン診療では、問診や動画のみで正確な診断を確定することは難しく、限界があることを十分に御理解いただいた上で、その利便性を適切に活用することが重要です。
- 初診からのオンライン診療は、オンライン診療に習熟した歯科医師が、対面診療へ切り替えることが可能な環境・体制（地理的・時間的にも）で行うことが求められます。
- 本リスト「歯科オンライン診療の初診に適さない症状」には、オンライン診療では適切な診断や対応が難しい症状や迅速な対面診療が必要と考えられる症状が記載されています。
- オンライン診療を実施した場合でも、診察の結果によっては歯科医師の判断により、速やかに対面診療へ切り替える必要がある旨を御理解ください。

1. 全身症状等

歯や歯肉，口腔粘膜，顎顔面領域の症状・病変とともに，次の症状・状態がある場合

- (1) 発熱や倦怠感がある場合
- (2) 身体症状（皮膚病変，眼病変，その他の肢体の病変等）がある場合
- (3) 意思疎通が困難な場合（介助者等がいる場合はその限りではない。）
- (4) 精神状態が不安定だと考えられる場合

2. 歯や歯肉（歯ぐき）に関する症状

- (1) 歯や歯肉（歯ぐき）の激しい痛み
- (2) 明らかな歯が動いている状態
- (3) 歯肉（歯ぐき）の著しい腫れや膿が出ている状態

3. 顔面や顎関節などに関する症状

- (1) 顔面部や顎関節などの激しい痛み
- (2) 顔面部や顎関節などの外傷・出血
- (3) 顔面部の赤みのある腫れや著しい腫れ
- (4) 顎顔面部のしびれ

4. 口の中の粘膜に関する症状

- (1) 頬や舌，歯肉など複数の部位に粘膜の異常（変化）
- (2) 頬や舌などの粘膜からの出血
- (3) 頬や舌などの粘膜のできもの，はれもの，しこり

5. 飲み込みに関連する症状

- (1) 飲食に伴う吐き気
- (2) 飲食に伴う呼吸困難（息苦しさ），窒息

6. 歯の補綴（ほてつ）物に関連する症状

- (1) 入れ歯が壊れている状態，入れ歯が動く，痛いなど明らかに入れ歯があわない状態
- (2) 歯の治療を行って被せたもの（冠）が外れた，動いている，壊れている状態
- (3) 入れ歯が合わないことが原因であることが明らかな口腔粘膜の痛みや異常

7. 小児歯科に関連する状態（保護者の状態等を含め，オンライン診療が適さない状態）

- (1) 高い発熱，強いだるさ，疲労感などが患者本人，同席の保護者のどちらかまたは双方にある場合
- (2) 小児患者に自傷・他傷行為を行う既往があり，そのコントロールがされていない場合
- (3) 保護者が同席できない場合
- (4) 保護者，小児患者との会話・意思疎通が困難（患者の機嫌が悪い，眠い，小児患者が叱られた

- 直後，保護者が対象の小児患者だけでなく他の兄弟などを叱った直後，強い疲労があるなど)
- (5) 診療の妨げになる家族やペットがそばにいる場合や騒音があるなど，診療に集中できない状況にある場合
 - (6) 虐待が疑われる場合

8. 矯正歯科系の症状

- (1) 矯正治療の必要性に関する診断・検査
- (2) 他院で矯正治療中のワイヤーを含む矯正装置の破損等による粘膜の傷・痛み

歯科オンライン診療の初診での投与について

十分な検討が必要な薬剤

日本医学会連合が作成した「オンライン診療の初診に関する提言」（2022 年 11 月 24 日版）の「オンライン診療の初診での投与について十分な検討が必要な薬剤」に準じる。

(参考) 歯科オンライン診療に適さないと考えられる症状

I. 保存修復・歯内療法系の症状

- (1) 保存修復系（う蝕，う蝕以外）
 - ア う窩の形成，欠損
 - イ 審美障害（変色，着色，形態異常などの相談）
 - ウ 亀裂，破折
 - エ 食片圧入
 - オ 誘発痛（冷水痛）
- (2) 歯内療法系（歯髄炎，根尖性歯周炎）
 - ア 自発痛（夜間痛を含む）
 - イ 誘発痛（温熱痛，咬合痛，打診痛）
 - ウ 歯根周囲の炎症性変化（発赤，腫脹，圧痛，排膿，瘻孔形成）
 - エ 歯の動揺
 - オ 鈍痛

II. 歯周病系の症状

- (1) 全身症状（発熱や倦怠感など）を伴う歯肉（歯周組織）の病変
- (2) 身体所見（皮膚，眼，その他の肢体の病変など）を伴う歯肉（歯周組織）の病変
- (3) 激しい疼痛を伴う歯肉（歯周組織）の病変
- (4) 著しい腫脹・排膿を伴う歯肉（歯周組織）の病変
- (5) 悪性腫瘍を疑う口腔粘膜の病変

III. 口腔外科系の症状

- (1) 顎顔面領域の外傷・出血
- (2) 口腔内ならびに顎顔面領域の著明な腫脹・発赤
- (3) 激しい歯痛や顎顔面痛
- (4) 神経麻痺
- (5) 悪性腫瘍を疑う病変
- (6) 精神状態が不安定な場合
- (7) 意思疎通が困難な場合
- (8) 三叉神経ニューロパチーの原因となる病態が，HIV 感染，骨髄炎などの三叉神経を傷害しうる感染症
- (9) 多発性硬化症などの神経疾患
- (10) 聴神経腫瘍などの三叉神経に傷害を起こしうる空間占拠性病変
- (11) 顎骨腫瘍や転移性腫瘍などの場合

IV. 口腔内科系の症状

- (1) 全身症状（発熱や倦怠感など）を伴う口腔粘膜病変
- (2) 身体所見（皮膚病変，眼病変，陰部病変など）を伴う口腔粘膜病変
- (3) 多部位（頬粘膜，舌，口蓋，歯肉など）に認める口腔粘膜病変
- (4) 出血を伴う口腔粘膜病変
- (5) 疼痛を伴う口腔粘膜病変
- (6) 悪性腫瘍を疑う口腔粘膜病変

V. 重度の摂食嚥下障害が疑われた症状

初診時と同様

VI. 補綴系の症状

- (1) 咀嚼障害
- (2) 審美障害
- (3) クラウン・ブリッジおよび有床義歯に関する症状
 - ア 補綴装置の脱離
 - イ 補綴装置の破損
 - ウ 補綴装置の動揺
 - エ 疼痛を伴う場合
 - オ 口腔粘膜異常を伴う場合
- (4) インプラントに関する症状
 - ア インプラント義歯の脱離
 - イ インプラント義歯の破損
 - ウ インプラント義歯の動揺
 - エ 疼痛を伴う場合
 - オ 口腔粘膜異常を伴う場合

VII. 小児歯科系に関連する状態

初診時と同様

VIII. 矯正歯科系の症状

- (1) 初診相談（初診相談（矯正治療の必要性に関する診断・検査）
- (2) 矯正治療中の動的治療期間で使用中の装置の新製，装着，調整
- (3) 身体所見（金属アレルギーなどの皮膚病変）を伴う口腔粘膜病変
- (4) 多部位（頬粘膜，舌，口唇など）に認める口内炎などの口腔粘膜病変
- (5) 出血（ワイヤーが刺さるなど）を伴う口腔粘膜病変
- (6) 疼痛（ワイヤーが刺さる，装置が粘膜に当たるなど）を伴う口腔粘膜病変

日本歯科医学会連合
歯科オンライン診療に関するワーキンググループ

小林隆太郎

小峰 太

齋藤 淳

鈴木広幸

中納治久

二階堂 徹

新田 浩

岩崎太郎